

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：（福）桑名市社会福祉協議会

※実施方法については、要綱別紙2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容		
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	時間数	うち通学	うち通信	1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解		(1) 多様なサービスと理解	3	3		(1) 介護保険サービス(居宅、施設)と介護保険外のサービスの理解
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		介護現場における仕事内容と実際のサービス提供現場の具体的なイメージ。 (2) ケアプランに始まりサービスの提供に至るまでのチームアプローチ・他職種・地域社会資源との連携
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	時間数	うち通学	うち通信	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 人権と尊厳を支える介護 人権啓発に係る基礎知識	5	5		介護職の目標が利用者の尊厳のある暮らしを支えることであることを自覚し、尊厳の保持、生活の質の向上、ノーマライゼーション、虐待、プライバシーについて学び人権啓発に関する基礎知識を理解する
(2) 自立に向けた介護		(2) 自立に向けた介護	4	4		(2) 自立支援、介護予防という視点を学ぶ
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	時間数	うち通学	うち通信	3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1		(1) ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関する職種
(2) 介護職の職業倫理		(2) 介護職の職業倫理	3	3		(2) ・介護の倫理の意義 ・介護の倫理 ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1		(3) ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策 (グループディスカッション)
(4) 介護職の安全		(4) 介護職の安全	1	1		(4) 介護職の心身の健康管理

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		時間数	うち通学	うち通信	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 介護保険制度		3	3		(1)	介護保険制度や障がい者支援制度について学ぶ。制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割と連携、介護支援専門員、介護福祉士、医療職について学ぶ。
(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度		3	3		(2)	医療行為と介護・訪問看護・施設における看護と介護の役割、連携・リハビリの理念
(3) 医療との連携とリハビリテーション		3	3		(3)	・障害者福祉制度の理念・総がいの総合支援制度の仕組みの基礎的理解・個人の権利を守る制度と概要
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		時間数	うち通学	うち通信	5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 介護におけるコミュニケーション		3	3		(1)	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション・利用者の状況、状況に応じたコミュニケーション技術の実際
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		3	3		(2)	記録における情報の共有化・報告・コミュニケーションを促す環境
6 老化の理解 6時間		時間数	うち通学	うち通信	6 老化の理解	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		3	3		(1)	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴(グループディスカッション)
(2) 高齢者と健康		3	3		(2)	高齢者の疾病と生活上の留意点・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
7 認知症の理解 6時間		時間数	うち通学	うち通信	7 認知症の理解	
(1) 認知症を取り巻く状況		2	2		(1)	健康な高齢者の物忘れと認知症はどう異なるのか。認知症の中核症状を理解する。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		1	1		(2)	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活		1	1		(3)	認知症の人の生活障がい、心理、行動の特徴・認知症の利用者への対応
(4) 家族への支援		2	2		(4)	認知症の受容過程での援助・介護負担の軽減(レスパイトケア)
8 障がいの理解 3時間		時間数	うち通学	うち通信	8 障害の理解	
(1) 障害の基礎的理解		2	2		(1)	障がいの概念、障がい者福祉の基本理念、高齢者介護との違いを学ぶ・障がいの概念と生活の質の向上・障がい者福祉の基本理念
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		0.5	0.5		(2)	・身体障がい・知的障がい・精神障がい・その他の心理機能障害の理解
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		0.5	0.5		(3)	・家族への支援・障がいの理解・障がいの受容支援・介護負担の軽減

9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75時間	
ア 基本知識の学習 10~13時間	
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習 50~55時間	
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	

9 ところとからだのしくみと生活支援技術			
ア 基本知識の学習	時間数	うち通	うち通
		学	信
(1) 介護の基本的な考え方	3	3	
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	4	4	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4	
イ 生活支援技術の講義・演習	時間数	うち通	うち通
(4) 生活と家事	4	4	
(5) 快適な居住環境整備と介護	4	4	
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4	
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	12	
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5	

9 ところとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) ・倫理に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流の排除) ・法的根拠に基づく介護	
(2) ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ・心の持ち方が行動に与える影響 ・体の状態が心に与える影響	
(3) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識、 biomechanicsの活用 ・中核神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自立神経と内部器官に関する基礎知識 ・心と体を一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気付く視点 (利用者の様子について普段との違いについて気付くにはどのような点に注意するのかが斑体制を用いてグループディスカッションを行う)	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性、能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観	
(5) 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法	
(6) 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身支度 ・整容行動 ・洗面の意義、効果(実技演習)	
(7) 移動・移乗に関する基礎知識、様々な移動、移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害する心と体の要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 (車いす、ベッド等利用した実技演習)	
(8) 食事に関連した基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態と体のしくみ、楽しい食事を阻害する心と体の要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼 ・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備 ・食事に関連した福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 (班でグループディスカッション ・食事に関連した用具等利用した実技演習)	

第1-2号様式

(9) 入浴、生活保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8		入浴、清潔保持に関連した基礎知識、様々な入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮 ・全身の清拭 ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ・陰部洗浄 ・足浴、手浴、洗髪 (班でグループディスカッション ・簡易浴槽使用し実技演習)
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8		排泄に関する基礎知識、様々な排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 ・排泄のしくみ ・排泄介助 (班でグループディスカッション ・ポータブルトイレを利用し実技演習)
(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 ・睡眠の仕組みについて ・安眠とは (ベッド等利用し実技演習)
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 死に行く人に関するところとからだのしくみと終末期介護	2	2		終末期に関する基礎知識とところと体の仕組み、生から死への過程、「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援 (グループディスカッション)
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通学	うち通信	ウ 生活支援技術演習
(13) 介護課程の基礎的理解	(13) 介護課程の基礎的理解	4	4		(13) 介護課程の目的、意義、展開 ・介護課程とチームアプローチ (班でグループディスカッション)
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 総合生活支援技術演習	8	8		生活の各面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と支援技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の修得を目指す。 ・事例検討の意義、効果 ・援助方法の見直し (班でグループディスカッション)
10 振り返り 4時間	10 振り返り	時間数	うち通学	うち通信	10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 振り返り	2	2		(1) 研修を通して学んだこと、継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点(利用者の総合的理解とチームアプローチの重要性)
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	(2) 就業への備えと研修終了後における事例	2	2		(2) 継続的に学ぶべきこと、継続的な研修について具体的にイメージできる事例を紹介する
追加カリキュラム					
計 (130時間)	計 (130時間)	130	130	0	

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

※ 項目ごとに時間数を設定すること。

※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。